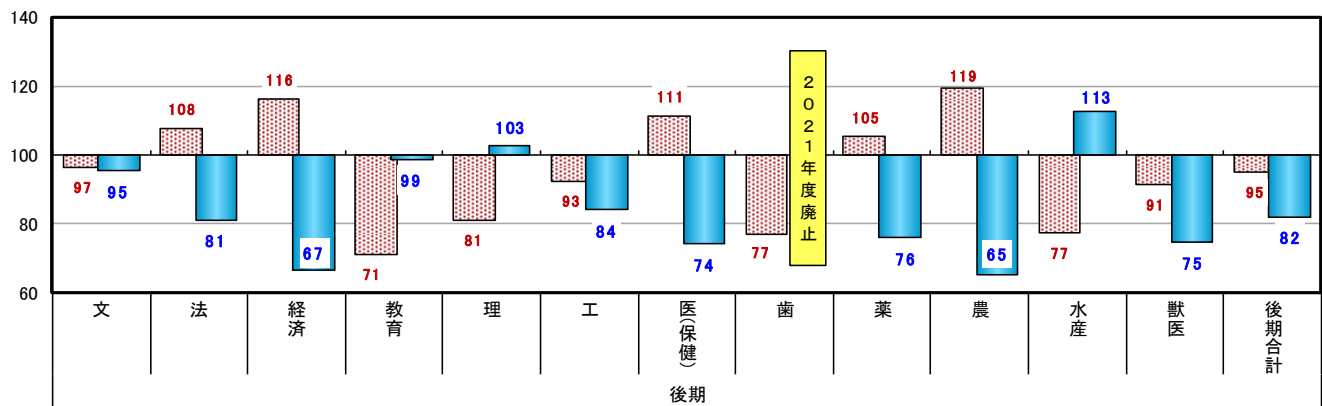
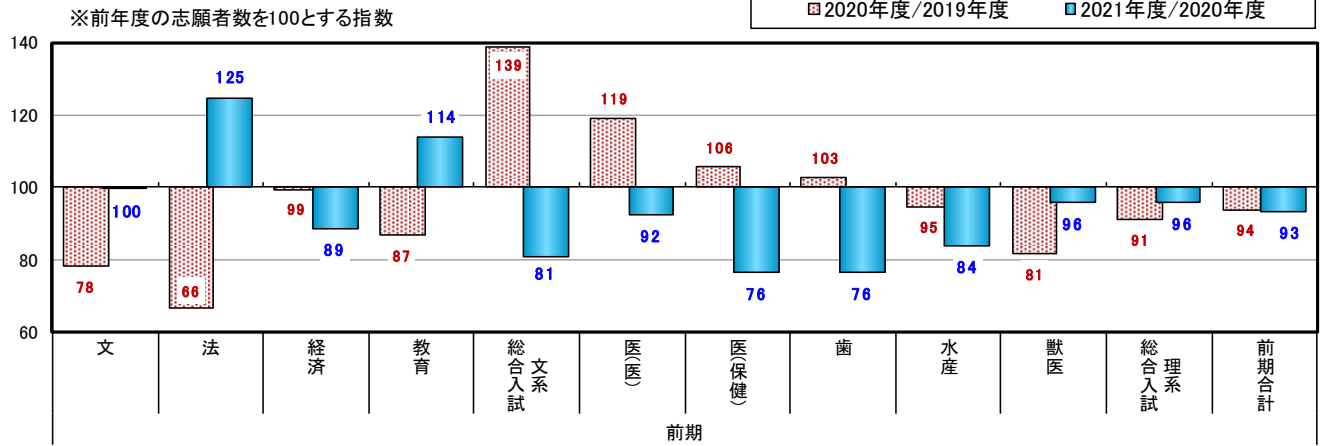


# 2021 年度入試状況分析【国公立大】

北海道大：コロナ禍で道外からの理系の志願者減少

前期：-370人 後期：-761人



入試変更点	選抜方法：歯…後期廃止 募集人員：歯…<前>30人→38人、<後>8人→0人 ※総合型選抜及び国際総合入試の選考による欠員の扱いによるもの 理(地球惑星科学)…<後>5人→9人      医(医)…<前>97人→101人 医(保健/看護)…<前>60人→63人      歯…<前>38人→39人 工(応用理工系)…<後>34人→38人      工(環境社会工)…<後>49人→52人 水産…<前>105人→111人      総合入試(総合科学)…<前>247人→248人
	個別試験：歯<前>…数+理2+外→数+理2+外+面 ※面接追加

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、コロナ禍による道外からの志願者数の減少もあって、総合入試が導入された2011年度以降で最も少ない志願者数となった理系学部が目立った。前期は370人(93)のやや減少で2年連続減少。総合入試が導入された2011年度以降、志願者数5,400人以上を維持してきたが、5,104人まで減少した。文理別では、文系は41人(97)のやや減少、理系は329人(92)の減少だった。後期は761人(82)の大幅減少で2年連続減少。廃止された歯を除いても(85)の大幅減少。総合入試が導入された2011年度以降、志願者数4,000人以上を維持してきたが、3,517人まで減少した。文理別では、文系は2年連続増加の反動もあって、182人(83)の大幅減少、理系も歯の廃止の影響もあって、579人(82)の大幅減少で2年連続減少。廃止された歯を除いても(85)の大幅減少。なお、2段階選抜は一部の募集単位で実施予告倍率を上回ったが緩和されて、前期、後期ともに実施されなかった。

- <前期日程>
- 文(100)は、大幅減少の反動はなく前年度並。志願倍率は3.1倍で、2015年度以降続いていた、前年度の反動による増減の継続が止まった。
  - 法(125)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も2.0倍→2.5倍とアップした。
  - 経済(89)は、系統への人気低下もあり、3年連続減少。
  - 教育(114)は、前年度減少の反動で増加。2015年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
  - 総合入試文系(81)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
  - 総合入試理系(96)は、3年連続減少。志願倍率2.5倍は総合入試が導入された2011年度以降で最も低倍率。選抜群別では、前年度大幅減少だった(数学重点)(122)が大幅増加、(総合科学)(100)が前年度並。前年度唯一増加した(化学重点)(85)は大幅減少。
  - 医(医)(92)は大幅増加の反動で減少。総合型選抜(旧AO入試)の欠員を加えた募集人員による志願倍率は3.6倍→3.3倍に

## 2021 年度入試状況分析【国公立大】

ダウン。

- 医(保健)(76)は、前年度増加の反動もあり大幅減少。志願倍率 2.3 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。2016 年度以降、前年度の反動による増減が続いている。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(68)、(保健/理学療法学)(72)、(保健/検査技術科学)(73)が大幅減少。さらに、(保健/看護学)(83)も大幅減少で、総合型選抜(旧AO入試)の欠員を加えた募集人員による志願倍率は 1.9 倍となり、総合入試が導入された 2011 年度以降で初めて 2 倍を下回った。
- 歯(76)は、募集人員が 8 人増加の 38 人となり、さらに総合型選抜(旧AO入試)の欠員を加えた最終的な募集人員が 39 人となったが、大幅減少。この結果、志願倍率 2.2 倍は、総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。
- 水産(84)は、大幅減少で 2 年連続減少。志願倍率 4.4 倍は、総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。
- 獣医(96)は、前年度大幅減少に続きやや減少。総合型選抜(旧AO入試)の欠員を加えた募集人員による志願倍率 2.5 倍は、総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。

### <後期日程>

- 文(95)は、やや減少で 2 年連続減少。
- 法(81)は、2 年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率も 11.0 倍→8.9 倍にダウン。
- 経済(67)は、2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も 12.8 倍→8.6 倍にダウン。
- 教育(99)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。
- 理(103)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。学科・分野別では、前年度大幅減少の(数学)(119)が大幅増加、地球惑星科学(77)は大幅減少。
- 工(84)は 2 年連続減少。志願倍率 7.5 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。学科・分野別では、(情報エレクトロニクス)(117)のみ大幅増加で、(応用理工系学)(61)と(環境社会学)(73)の大幅減少が目立った。
- 医(保健)(74)は、2 年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率 8.0 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(71)、(保健/検査技術科学)(67)が大幅減少。志願倍率 8.0 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。
- 薬(76)は、3 年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率 8.0 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。
- 農(65)は、2 年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率 6.0 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。
- 水産(113)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 獣医(75)は、2 年連続減少。志願倍率 5.3 倍は総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。